

# 欧州馬術レポート

週刊 Gallop 2020 年 10 月号掲載



日本中央競馬会所属

## ◆佐々紫苑

(さっさ・しおん)

1995年東京都生まれ。早稲田大学卒。2012年全日本ジュニアライダー総合馬術選手権優勝。15、16年全日本ヤングライダー総合馬術選手権連覇。20年4月にJRA日本中央競馬会入会。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

## 馬心伝心 —奮闘記part II—

### 佐々紫苑

Shion Sassa



何年か前、ラグビーの五郎丸歩選手がキックする前に決まってする動作、ルーティンが話題になりました。「いざ出陣！」というときに必ず決まった手順で行うことですが、実はこれ、馬たちもやっているんです。初めて私を全日本障害という大きな大会に連れて行ってくれた競走馬出身の南無号は、試合当日の朝、まず自分で猫のように身体を伸ばしてストレッチをします。そして蹄の中をき

れいにする裏掘りの時は、必ず右前肢から挙げると決まっていた。

オランダで活躍したWINNIDOUは、まず試合前厩舎から出るときに後肢を後方にぐーっと伸ばして股のストレッチ。次に頭絡を着ける前には必ず、「さあこれから大事な試合だ」と気合を入れるかのように、一度頭をぶんと振ります。そんな様子を見ることが、私の試合前のルーティンでもありました。

これに比べるとQUANDOは、いつでもドンと構えていてなんのこだわり也没有でした。でも身体が硬くなりやすいので、試合前には手に持った砂糖やニンジンを使い、それを追いかけて身体が伸びるようにストレッチの手助けをしていました。

それぞれの馬たちのこだわりのルーティン。馬も私たちと同じ、アスリートなのです。



2010.07.1

ストレッチのお手伝い (本人提供)

## Let's enjoy Dressage

### 高田茉莉亜

Maria Takada



アイリッシュアラン乗馬学校所属

## ◆高田茉莉亜

(たかだ・まりあ)

1994年東京都生まれ。慶應義塾大学卒。2010、11年に全日本ジュニアライダー馬場馬術選手権連覇。16年の全日本ヤングライダー馬場馬術選手権で史上初の4連覇を達成した。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

サマータイムも終わり、暗くて寒いドイツの冬がまたやってきます。例年であればインドアでの大会のシーズンに入りますが、コロナ禍でも無事に開催できるのか、少し不安です。

さて先日、今シーズン最後のアウトドアでの大会へ行ってきました。ジュニアからシニアまでの国際大会と、国内大会が同時開催されていて、たくさんの選手がヨーロッパ各地から集結。密を避けるように厩舎は分散されていて、馬場

使用の予約(20区×60区の馬場に6人馬まで)や、室内でのマスク着用などが義務付けられ、無観客での開催となりました。

無観客とはいえ、選手や関係者だけで何百人と集まっていたので、フードスタンドやコーヒースタンド、馬具屋の店もあり、各人馬の演技後には拍手が送られるなど、とてもあたたかい空気の大大会でした。私と愛馬も2日間を通して安定した演技で入賞し、アウトドアシーズンのいい締めくくりとなりました。

表彰式は入賞した選手が馬に乗ったまま表彰を受け、そのままウイニングランをするのが主流ですが、今大会中のある日、大雨でアウトドアでの乗馬表彰が急遽中止され、インドアで表彰式を行うことに。入賞した選手たちが馬場馬術の正装に、マスクをつけて表彰を受けている姿が何ともシュールでした…。

表彰の後、選手たちがこの格好のまま馬の駢歩(かけあし)のようにスキップでウイニングランを敢行。今大会で一番盛り上がりがありました(笑) (本人提供)

